

## WAW！／W20 パネル・ディスカッション「技術革新と変容する社会における人材育成」

---

### 現状・課題

---

第4次産業革命と呼ばれるビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)等による技術革新が進み、様々な機器がインターネットでつながり便利さを増している。日本では、電子商取引(EC)が身近なものとなり、自動運転バスや電車の試験走行が開始し、企業における受付の自動化やロボットの導入も進んでいる。家庭では、自動運転で掃除するロボットやネット家電が普及しつつあり、女性が多くの部分を担ってきた無償労働に費やされる時間が縮小されると共に、男性が家事に参加しやすくなることが期待されている。

持続可能な開発目標(SDGs)の目標5では、女性の能力強化促進のため、ICTを始めとする実現技術の活用を強化することをターゲットの1つとしている。2018年のG7シャルルボワ・サミットでは、全ての労働者が、新たな技術を通じたイノベーションによりもたらされた新たな仕事に適応し成功するのに必要な、技能と教育への平等なアクセスを確保することや、特に女兒・女性のための科学、技術、工学及び数学(STEM)の分野において市場主導型の訓練と教育を拡大することが首脳コミュニケに明記された。

プログラミングや大量データの分析といった能力を持つ人材を育成するため、STEM分野の教育が世界で進められている一方で、高等教育機関において理工学系を専攻する学生の割合は低い。特にSTEM分野を専攻する女子学生の少なさは国際的な課題であり、STEM分野の高等教育の新入生に占める女性の割合は経済協力開発機構(OECD)35カ国の平均では30%であり、中でも日本は16%と平均を大きく下回っている<sup>1</sup>。昨年のWAW!では、教師や親が性別に偏見を持たずに子ども達に接することの必要性や、子ども向けの本などに女性の宇宙飛行士を取り上げて意識改革を行う取組例が共有された。女子学生が偏見を受ける、差別されるといったことがないような枠組みづくりも必須である。世界経済フォーラムが発表した2018年ジェンダーギャップレポートでも、STEM分野における女性労働者の割合の低さが経済成長につながらない要因の一つとして取り上げられている。

発展途上国ではインフラが十分に整備されていない地域も多く、デジタル・デバイドへの対応や女性・女兒のデジタル経済へのアクセス改善が急務である。また、女兒への高等教育及び職能教育の普及が、世界全体に経済成長をもたらすと言われている。2018年のG20ブエノスアイレス・サミット首脳宣言には、デジタル・デバイドを埋めてデジタル包摂性を更に増進するための措置を促進することが明記された。

技術革新が進む社会では、誰もが活用し活躍できる可能性を秘めている。インターネットや大量データの送受信システムなどの発達により、在宅勤務やサテライトオフィス勤務など、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方であるテレワークも広まりつつある。年齢にとらわれず、いつでも学べる環境を整備し、誰もが取り残されることなく、技術革新の成果を享受することができる社会のあり方が求められており、そのために必要な人材育成は、現代の国際社会共通の急務である。この課題は、SDGs目標5(ジェンダー平等)、目標4(質の高い教育)、目標8(働きがいと経済成長)、目標9(産業と技術革新)に密接に関連している。

### 論点

---

- 第4次産業革命が社会全体へ影響を及ぼす中で、どのような人材の育成が求められているか。
- 技術革新の恩恵から取り残される可能性がある地域やグループがあるとすればどこか。その予防策は。
- 新しい技術の恩恵を公平に受けられる社会を構築するには、どのような方策が必要か。
- STEM分野の人材育成において、企業、政府、教育機関、市民はどのように協力することができるか。特に、女性のSTEM分野における進学、研究、就業を促進するために、どのような取組が必要か。

---

<sup>1</sup> OECD Health Statistics 2018